

1 令和6年度(2024年度)以降の養殖事業の取り組み

本市では、魚類の養殖を実現するため、令和3年度からキングサーモンの完全養殖技術研究に着手、令和4年度からは国の地方大学・地域産業創生交付金事業を活用し、魚病対策や飼料開発などの事業化研究や海面養殖研究も加え、現在、着実に養殖事業を進めております。

研究内容につきましては、過去の協議会でもご報告したとおり、キングサーモンの人工魚と天然魚を飼育しながら、生育に関する知見を深め、精子等の遺伝資源の保存やDNA解析のほか、採卵・人工授精、孵化試験などに取り組むとともに、SPF種苗作製や環境負荷低減に貢献する飼料の開発、海洋環境のモニタリングなどに取り組んでおります。

また、海面養殖研究として、函館大森海域に設置した浮沈式生け簀で令和4年11月から開始した、サクラマス海面養殖試験の水揚げを行い成果の確認をしたほか、本年11月に新たにサクラマス種苗を投入し、2期目の海面養殖試験を開始したところです。

今後につきましても、キングサーモンの完全養殖技術研究のベースとなる飼育試験を継続しながら、人工授精や孵化など種苗生産技術の研究に取り組むほか、高品質なサーモンの養殖と経営コストの低減を両立する餌料の開発や安定した養殖経営を維持するための魚病対策など事業化研究に取り組めます。

海面養殖研究では、令和6年6月にサクラマスによる2期目の海面養殖試験の水揚げを行うとともに、11月には、完全養殖技術研究として現在、中間育成施設で飼育中の令和4年度に人工授精により作出したキングサーモンによる海面養殖試験を開始する予定です。

また、本市の基幹漁業であるコンブ養殖については、母藻の確保など喫緊の課題をクリアするため、令和4年度から交付金事業として、コンブの完全養殖技術研究を開始し、気候変動に適応する養殖システムの開発により持続可能な漁業を目指して、鋭意、取り組んでいる中で、令和4年度から令和5年度にかけて、養殖コンブから種苗を生産し、海面養殖する事に成功しました。

今後につきましても、成熟誘導コンブを母藻とした養殖コンブの検証のほか、近年、漁業被害が深刻となっているヒドロゾア付着対策など、様々な研究に取り組んでいきます。

各種研究の取り組みにつきましては、市内漁業協同組合をはじめ、北海道大学大学院水産科学研究院や函館国際水産・海洋都市推進機構、市内の学術研究機関などと連携しながら進めてまいります。